



新政会代表
立谷耕一 議員
が問う！

尾浜地区復興交流広場の整備状況及び地域とのかわりはどうか。

平成31年度施政方針について

尾浜地区復興交流広場の整備は、海水浴場に隣接しており、交流人口の拡大につながるものと期待される。整備状況や今後の見通し、管理運営について伺う。

Q. 尾浜地区復興交流広場の整備の詳細が見込まれる効果、課題について伺う。

A. 当該広場は、復興交付金を活用し、広場の全面積6,777ヘクタールに、芝生広場や駐車場、トイレ、遊具、園路等を整備するもので、現在、側溝の排水施設や盛り土、芝生整備、給水設備などの工事に着手している。また、敷地内に雨天時など



未来そうま代表
只野敬三 議員
が問う！

民間からの優秀な人材確保が重要である！

復興市民市場(仮称)の管理運営について

市は、風評被害払拭のため重要な施設として、復興市民市場(仮称)の建設に着手し、その管理運営のための会社を設立した。

平成30年12月定例会においても、運営方法についての議論がなされたが、改めて確認をする。

Q. 官民が適材適所ですみ分けをし、運営すべきではないか。

A. 官民共同事業体ならではの利点を生かし、商工会議所や小売店舗経営者等の現場経験豊富な出身者と協議の上、適切な民間人材を採用するよう努めてまいりたい。



そうま維新代表
根岸利宗 議員
が問う！

子どもを中心に、各組織間の連携を密にしたい！

教育行政について

教育行政における新年度の方針を教育長に伺う。

Q. 学力向上施策について伺う。

A. 小学校5年生から中学校3年生までの読解力育成のための新聞コラムによる家庭学習。中学校2年生の実用英語検定試験の受験。市内全小・中学校でのタブレット型コンピューターを活用したICT教育。小学校における国語辞書の活用。指導主事による授業改善研修。子供たちの学級生活の満足度を高めるアンケート調査結果を活用した親和的な学級づくり。



令和2年夏ごろの竣工を目指して、整備が進む尾浜地区復興交流広場

に小さな子供が遊び、親子連れが交流するための多目的ホールや談話室などを備えた約540平米の地域交流支援施設を整備するため、実施計画と地質調査を行っており、今後、国と協議を進め、平成31年度中に本体工事に着手する計画である。

今後は、広場周辺の原釜尾浜海水浴場や伝承鎮魂祈念館、今後整備する復興市民市場の施設はもとより、既存の民宿も含めた地域全体が観光エリアとして形成されることにより、交流人口の増加等が図れるものと期待している。



Q. レジの手数料定額方式についての考えはあるのか伺う。

A. 定額の経費というものを必要ないような形にしようと考えており、難しいかもしれないが、今後少量の定額負担ということも考えられないことはない。参入者にもいろいろハードルが出て、それが趣旨に合うかどうか、これから十分協議をしながら進めていく。

Q. 民間からの人材確保が重要と考えるが、所見を伺う。

A. 風評払拭には地元の人を率先して消費することが一番だと思っている。そのために出品する人たちが損することがあってもいけないということなので、そういう中で、立派な人材を集めるために、出資者を中心に、今後いろいろと協議をしていく。

その他の質問

- ドローンの活用について
- 学校給食の改善について
- 友好都市及び災害時相互応援協定自治体とのあり方について
- 骨髄移植ドナー支援事業の実施について

その他の質問

- 市長の政治姿勢について

Q. 教員の多忙化解消施策について伺う。

A. 部活動休養日の週2日間の設定、ノー残業デーの設定、お盆期間中の学校完全閉庁の実施、校務の効率化のための通知表や指導要録の一部電子化などを行っている。また、児童・生徒への対応を支援する教育支援相談員などの人員配置は、教員の多忙化解消策として有効であると考えており、今後も継続していく。

さらに、教員の校務の効率化を進めるために、児童・生徒の成績処理や出欠・時数・健康の記録など一元管理するシステムである統合型校務支援ソフトの各小・中学校への導入については、他市町村での成果を検証の上、検討していく。